

生涯学習だより

平成7年12月25日

●編集発行 大豊町教育委員会
生涯学習課

〒789-03 長岡郡大豊町川口2055-1

TEL (0887) 72-1121

No. 1 (事業報告版)



『植物ウォッチング』 中村大王

目次

少年の翼コーナー	1
婦人コーナー	11
スポーツコーナー	15
青少年事業コーナー	19
公民館コーナー	23
文化行事コーナー	24
学校だより	26
その他	28

生涯学習社会づくりを目指します。

- (1) ふるさとに学ぶ教育 (学びあい)
- (2) ふるさとに生きる教育 (育ちあい)
- (3) ふるさとと人々に尽くす教育 (尽くしあい)
- (4) ふるさとを創造する教育 (造りあい)

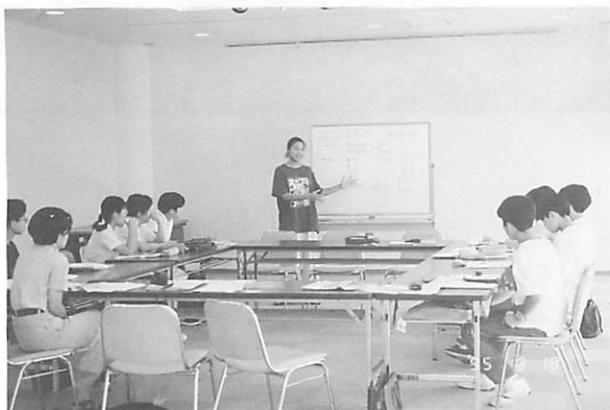
少年の翼コーナー

大豊町少年の翼オーストラリアに

—— 感動と感激の7日間の旅 ——

ゆとりすと養成事業の一環として、町内の中学生を海外に派遣し、訪問国での学校との交流や各施設の視察体験を通して国際的視野を広める目的で今年も町内の中学生10名と引率者3名で去る8月21日(月)から27日(日)(6泊7日)の日程でオーストラリアの学校や農場施設を訪問し、「友好と親善」を十分に深めた。

平成7年度ゆとりすと養成事業大豊町少年の翼海外体験学習団員……「大豊町少年の翼」の団員募集については、作文「私の将来について」と面接により10名を選出、4日間の事前研修などを経て8月21日午前11時40分農工センターで壮行式を行い、家族や先生方や関係者の大勢な人達に見送られ一抹の不安、期待と希望とを胸に一杯膨らませながら元気よく出発した。



事前研修で……How are you?

今回の体験学習での大きな目的は、シドニーから約90分位の所にあるメルー国際センターでの3日間のファーム・スティ(農場体験)等を通して他国からの交流生や学校訪問と見学で現地交流を深める狙いがあった。

オーストラリアの8月の気候は日本でいえば初冬と云ったところか、でも今年は地球規模の暖冬の影響であろうか本当に暖かく、それに加えて雨も降らない日が続いている関係で湿気もなく、体を動かしても汗をかかず正に最高のシーズンであった。

メルー国際センターの施設全体は日本各地にある青少年センターと云ったところか、非常に行き届いた現地の人々の心配りと整備された各施設とに農業と観光とに生き、同時に自然保護に対する熱意が強く感じられた。

団員達が宿泊した部屋は当地の牧童小屋風の建て方で広さは6畳ぐらいでベッドは木製の2段ベッドが4つと棚がありテレビやラジオは勿論なし、灯りは蛍光灯の小さいのが一つだけ、トイレとシャワーそして洗濯場も共同使用と云ったような本当に質素なところ、つまり現在自分たちが生活している近代的な生活様式では到底考えられない様ところであった。

でもそんな不自由さを感じさせないぐらいにオーストラリアの広大な大自然が団員の気持ちを和ませた。それほど素晴らしく感動的なものであった。

また、このことがお互い同志の融和と団結心を更に強くしたと思った。

このような体験から現在の恵まれ過ぎている自分達の生活を今一度見直す最高の場所でもあったように思うし、学校訪問で見た団員の目の輝きは又一段と素晴らしい輝きに映った。

この時ばかりは英語の語学力を確かめるように身振り手振りで一生懸命話していたし、団員にとっては一番楽しかった時間でもあったように思う。

この海外体験学習を通じて短い時間で外国のこと

を全部理解することは到底無理だと思うが、このことで外国の出来事（フランスが核実験を行ったムルロア環礁はオーストラリアに近いので、現地の人達も自然環境の破壊などにとっても心配していた。）に関心を持ち、そのことから語学力を高め我大豊町を見直す機会を得たことが最大の収穫だった。

しかも、27日に高知空港に帰って来た頃には当初消極的だった団員達も驚くほど積極的になり何かをつかんで帰って来たその目の輝きの向こうに、私は明日に向かって光輝いているそれぞれの姿を見た。

今後ますます勉学に励み将来の大豊町を担う若者として成長してくれることを期待し確信した。

各団員に感想文を書いて貰っていますのでここに紹介します。なお全員の方の紹介をと思っていたが紙面の都合があり次回とします。

ゆとりすと養成事業 大豊町少年の翼海外体験学習団員

団 長	近藤 英雄	教育委員会生涯学習課長
副 団 長	大原二三男	大杉中学校長
引率及び通訳	山口 澄	生涯学習課主事補
団 員	笹岡 崇	西峰中3年
〃	北村 千恵	大豊中3年
〃	桑名 佐苗	〃
〃	四宮亜紀子	〃
〃	上村 桂子	大豊中2年
〃	藤本優羽輝	〃
〃	岡本 和也	大杉中3年
〃	山内 佐恵	〃
〃	入野 有加	〃
〃	村山 真一	大杉中2年
添乗員及び通訳	西山 典子	旅行代理店



さあ、いよいよこれから出発だ!! (関空で)

「オーストラリア研修を終えて」

西峰中3年 笹岡 崇

ぼくは8月21日から8月27日までの一週間オーストラリアに行ってきました。

ぼくがオーストラリアに行った理由は母が絶対に行け、と命令のように言ったからです。それでしかたなくぼくと弟は作文を書くことにしました。ぼくが別に行きたくなかった理由は作文を書くのがたいそかったし、毎週金曜日に21世紀センターに行かなければならなかったからです。それに今年は3年なので補習があり、ちょうど22日から25日の間にもそれがあつたし、スケジュールがつまっていた、とても行けるような体力も残っていないだろうと思ったからです。作文を書いた時も別に受からなくてもえいわ、と書いて書きました。

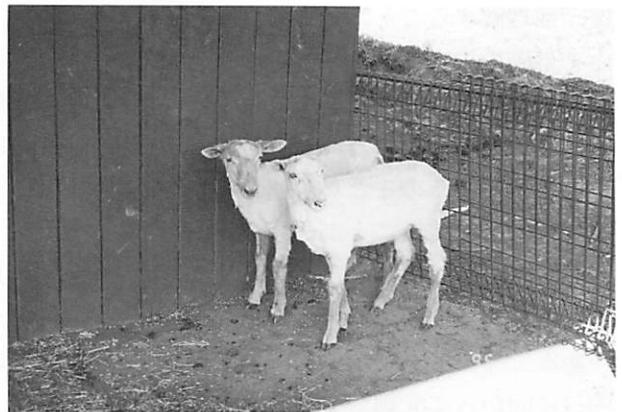


メルー国際センターの研修、宿泊地

そして面接があり、農工センターに行くと20人の応募があり、その中には意外と3年が少なく、1年が多かったです。面接の内容はこの企画に応募した理由と趣味などを聞かれました。一応まちがえないようにいったけど、まごついたので受かってはいるだろうと気楽に考えていました。そして後日、面接の結果を電話で伝えてきました。それによると弟は受からず、ぼくが受かったということでした。それからは非常に忙しかったです。まず県庁にパスポートの申請に行って、次の週にパスポートの受け取りにまた県庁まで行きました。そして金曜日は21世紀センターに行き、補習は半分ぬけてしまいました。出発前の1週間は補習もなく休めると思ったけど、実際には宿題に追われて休めませんでした。これが出発までのいきさつです。

そして21日の午前11時20分から壮行式がありました。それから1回解散して再び1時半に役場に集まって高知空港に向けて出発しました。そして、高知空港から40分位で関空に行きました。関空では3時間位自由行動があって、本などを買っていました。そしていよいよオーストラリアに向けて出発しました。夜間の飛行機だったのでぐっすり寝ようと思っていたけど、思った以上に揺れて2~3時間しか寝られませんでした。ちょうど映画をしていたのでそれを見てヒマをつぶしていました。機内食はまあまあでした。その飛行機はブリスベン経由でシドニー着のだったから、ブリスベンで一度外に出て空港の中の店を見ました。それがなんと朝の6時で日本時間だと5時だから、とても眠かったです。しかし、オーストラリアは冬で気温が低く、すぐに眠たさもなくなりました。すがすがしい感じがしました。日本みたいにじめじめしていないのでそういう感じがしたのかもしれませんが。

それから再び飛行機に乗り、2時間ほどかけてシドニーに到着しました。そこから専用車に乗って目的地のメルーに到着しました。12時ごろ着いて昼食をとり、部屋の整理などをしてすぐに農場体験をしました。最初は羊の毛刈りをしました。そこには羊の毛刈り大会で優勝したという名人がいて、その人は1日に300頭の羊の毛刈りをしたとのことでした。まるまるとしていた羊がみるみるうちにやせっぽちになっていきました。そして寒そうに寄り添っ



毛を刈られた羊 - おお寒そう -

ていました。羊の毛はとても油っぽくふわふわしてました。次にブーメラン投げをしました。その羊の毛刈り名人はブーメランもうまくてきちんと帰って来ていました。みんなやったけど、一応回るけど自分の所までは帰って来ずに、手前で落ちていました。ブーメランは風によって投げる方向を変えて、きちんと帰って来るようにしていました。すごく簡単そうにやっていたから、ぼくもできると思っていたけど全然だめでした。やっぱりいつもやっていないとああはできないと思いました。次に乗馬をしました。1日目の中ではこれが1番よかったです。馬に乗ると意外と高く、ゆれるから最初はこわかったけど、慣れるとスムーズに進んでくれて乗り心地は思ったよりも良かったです。走らすようにもしたかったけど、それはちょっと無理でした。時々、前の馬にじゃれたりしていました。池や牧草地などをぐるっと1周しました。その間は時を忘れたように和やかになりました。もう1回くらい乗りたいと思いました。これでオーストラリア1日目は終わりました。6時から夕食だったので、それまでここに来ていた群馬の人と一緒にバスケットをしました。夕食はバーベキューで、その時ベジマイトを初めて食べました。何とも言えない強烈なおいがありました。1口食べると吐きそうになりました。その夜はちょっと群馬の人と話をして11時ごろ寝ました。昼はけっこう暑かったけど、夜になるとさすがに冬なので冷え込んできました。朝になるともっと寒くてかぜをひいたかと思いました。

その日は最初に動物のえつけをしました。羊は手にえさを持っていると寄って来て食べていました。しかしちょっとたつと、こわがって食べなくなり、



- 羊の毛刈り名人 -

下にまいて食べさせました。

次に牛の乳しぼりをやりました。その時、牛はごきげんななめで、センターの人がしぼると何ともないけど、ぼく達がやると怒って後足でバケツをひっくり返していました。ぼくは意外とうまくいったけどやっぱりしぼを振って怒っていました。機械でやると思っていたけど手作業だったので驚きました。せっかくの牛乳をまかしてしまって申し訳ないことをしたと思います。

その次には、近くの池に行ってカヌーをしました。カヌーと言ってもボートのような物でした。2人で乗って池の端から端まで行ったり来たりしました。インストラクターの人に水をかけられてズボンがぬれてしまいました。腕は痛くなったけど、乗馬の次に面白かったです。午前中にこの3つのことをして昼食をとりました。昼食といえども肉が主で胃がもたれるんじゃないかと思いました。



メルー国際センター内農場

そして昼食の後には景色のいい所に行って写真を撮ってから、ブッシュウォーキングをしました。その敷地内の道をずっと歩いて、いろいろな物を見ました。それからセンターに帰っておやつを食べて、アーチェリーをしました。ぼくはけっこう的に当たってうれしかったです。それからバレーなどをして、カンガルーを飼っている家に行きカンガルーを見せてもらいました。小さくて、とび方がとてもかわいかったです。

その夜で群馬の人とお別れだったので、集まって話をしたかったけど、群馬の人たちはセンターに来る前にホームステイをしていて、そのホストファミリーが来ていました。だから集まることはできませんでした。ぼくは最初は話し相手もいなかったけど、

だんだん溶け込んで群馬の人とも話ができたら良かったと思っています。それに日を増すごとに積極的になれたことも良かったです。

3日目は現地の学校を訪問することになっていました。群馬の人と少し話をしてから学校へ出発しました。ぼくはメルー国際センター泊の3日間の中で一番この日のことが心に残っています。なぜなら、学校を訪問してたくさん驚くことがあったからです。まず、1つ目はオーストラリアの子供は日本人より積極的で初対面の人でもすぐに話してしまうことです。そして日本語で質問してくるのです。それに「干支」まで聞いてきました。ぼくにこの質問を英語でしろと言われてもできないと思いました。

次に団員が1人に学校の生徒2人で学校の案内をしました。ぼくは4人もきて口々に話していたので分かりませんでした。その内の1人のイアンという少年が手にそっくりのおもちゃを出してきて、女子の肩にのせてびっくりさせていました。その後でおやつを食べてお土産の交換をしました。こちらからは千羽鶴を、あちらからはそれぞれもらいました。ぼくは4つももらいました。あけるとスプーンやオパールの原石もありました。来年のカレンダーもありました。あと一つは何とベジマイトでした。ぼくはちょっとショックでした。ちょっと残念だったのは向こうはそれぞれくれたのに、こちらからは全体に1つしかあげなかったことです。それぞれ1つずつでも用意してもよかったと思います。帰る時にみんなバスの所まで来て見送りをしてくれました。ぼくもこんなにとけこめるとは思っていませんでした。

センターに帰ると、乗馬をもう一度して、木の上からロープにぶらさがって谷の向こうまで行くフライングフォックスをしました。とび出すまではこわかったけど、出てしまうと全然こわくありませんでした。これで3日目は終わりました。

オーストラリア4日目はバスでシドニーへ行って市内を見学し、オペラハウスやハーバーブリッジを見ました。写真で見るとより、ずっとスケールが大きく、きれいでした。そして夜になるとクルーザーに乗って夕食を食べました。夜のオペラハウスは一際きれいでした。その後、おみやげなどを買ってホテルに帰りました。

オーストラリアにいたのは、この4日間だけだっ



カッコイイ……でしょう

たけど、いい体験をさせてもらったと思っています。ぼくはこの4日間で自分から進んで話しかけるようになったし、積極的に行動できるようになったと思います。しかしファームステイだけでは何か物足りないような気がします。群馬の人たちはホームステイせんのはもったいないと言っていました。ぼくもホームステイを試みたかったです。ファームステイもおもしろいです。しかしほとんど言葉の通じない外国の家にほうりこまれて生活するのはもっとおもしろいことだと思います。

来年もファームステイにホームステイをつけ加えて期間を長くしたりしてこの企画を続けてほしいです。

こんな貴重な体験をさせていただいて本当にありがとうございました。

「オーストラリアで学んだこと」

大豊中3年 桑名 佐苗

8月21日に出発して、約12時間でオーストラリアのシドニーに着きました。私がオーストラリアに着いて一番に感じたことは「空が広い」ということ。なぜ同じ地球上の国なのにこんなに違うのかな、と思いました。

そしてシドニー空港から1時間くらいかけてバスでメルベ国際センターに行きました。そこはとても広い野原（しばふ）が広がっていました。私は初め、言葉も伝わらない土地に着き、オドオドしていました。自分から話しかけるなんてとんでもない。JT Bの西山さんがオーストラリアの人たちと英語で話

しているのをただ黙って見ているだけでした。けど、私たちが現地の人と心を開いて話せるようになったきっかけになるできごとがありました。それは私たちが農場体験でつかれてしまい、のどがかわいてしまって、自動販売機にジュースを買いに行ったことです。私たちはトラベラーズチェックしか持ってなく、コインを1枚も持っていませんでした。そこで私たちは調理場に行き、大きな声で「Excuse me」というと奥から優しそうなおばさんがでてきて、ゆっくりとジュースを入れて話してくれて「私がお金をだしておいてあげるから、ここのお店の人が起きて来たらお金払っておきなさい」と言ったので、「Yes」と答え、ジュースを買い、おばさんに「Thank you」と言いました。その後、「1本のジュース」なのに自分で買ったという、うれしい気持ちが心の底からわいてきて、「言葉がほとんど伝わらなくても自分から話そうとか、相手の話していることを一生懸命聞き取ろうとすれば、できないことはない」と思い、そのちょっとしたできごとで本当にささいなことだけど自分に自信ができました。それからは、羊の毛刈りの時など、「次は誰ですか」と聞かれても、今までの『オドオド』していた自分はいなくなり、「私がやる」というように手を上げて言え、何かにしてもらったら、自然に「Thank you」と誰にでも言えるようになり、その時点で、今考えると心が『open』に少しずつなっていたように思います。

メルベセンターで一番大好きになった人は『KIYOSUKU』のおばさん。おばさんには特に良くしていただきました。『KIYOSUKU』のおばさんはオーストラリアの私の母です。今からでもす



学校訪問での先生と生徒達

ぐ会いたいです。

オーストラリアに着いてから3日目の学校訪問では、私が想像していなかったことがありました。それは、現地の中学生が『日本語』で質問してきたことです。そして学校に着いてすぐ、私たち1人1人に2人の現地の中学生がついて学校案内をしてくれました。言葉がなかなか聞き取れず、苦労したけど相手の子たちもゆっくり話をしてくれ、分かる単語があればだいたい話してる内容も分かりました。そうこうしているうちにすごく仲良くなりました。だから学校訪問の時間が終わるのが“アッ”という間で1日中遊びたかったです。

このころからだったと思いますが、私はどうせこんな遠い所まで来たのに“ホームステイ”をしないのは本当にもったいないと思うようになりました。だから来年はもしこのような行事が行われるとすれば、どんどんそういう日本と違う生活などを勉強するためにも“ホームステイ”も取り入れるべきだと思いました。

メルー国際センター最終日、「バスが来てるよ」と西山さんに呼ばれて部屋から出てすぐ、私は西山さんに「メルーのお世話になった人にお礼を言いに行っていていいですか」と言い、「いいですよ」と言われたので、走って一番に『KIYOSUKU』のおばさんの所へ行って、「Thank you for your kind」(親切にしてくれてありがとう)と言うと「またいつでも遊びにおいで」と言ってくれました。私はすごくうれしくて胸がいっぱいになりました。そしてその時、本当にオーストラリア(メルー国際センター)に来て良かった、またぜったい来ると思いました。

そしてオーストラリア観光最終日のシドニー観光、コアラとの写真撮影やハーバーブリッジ、オペラハウスなど、今までに見たことのないすばらしい風景、そしてなんとと言ってもサンセットクルーズから見た夜景の美しさ、一生忘れることはないでしょう。(ぜったいにまた見に行く) オーストラリアの人は本当に優しいです。ただサンセットクルーズの人たちと少し仲良くなっただけなのに、わざわざ船長さんに運転している所を見せてあげてというふうに頼んでくれて、特別に運転する所に入れてもらい、出た言葉は一言、「Beautiful」。本当にその時に見

た夜景は今までに見たことのない美しさで、みんな体がとまって、ただひたすら「Beautiful」の一言でした。

そして、その日に夜ホテルでみんなで「オーストラリアに来て、たくさんいいことがあった。それに英語も少しは上手になったでね」と話しました。本当に今考えても英語は上達したと思います。

このようにオーストラリアで過ごした約4日間は充実していました。毎日が楽しくて、『ドキドキ、ワクワク』の繰り返し。とにかく楽しかったの一言です。



英語で… 感謝をこめて… 千羽鶴を

「少年の翼に参加して」

大杉中3年 岡本 和也

題に対する答えを一言で表すと『良かった』になる。初めての海外旅行ということもあるけど、もう一生忘れない思い出になると思う。オーストラリアが好きになってしまった。今すぐにでも行って住んでみたい。でも世界の国はオーストラリアだけではない。アメリカ、ヨーロッパ諸国などなど180以上の国があるのだから、オーストラリアが一番と決めつけるのは早いかもしれない。

どうしてオーストラリアをこんなに好きになれたのか。考えてみると、現地の学校訪問が一番影響していると思う。Arndell college という学校を訪問したのだが、そこは4、5才の小さな子供から16才までの高校1年生が勉強している私立の学校だ。制服があるけど、その制服も高知県の中学校みたいな黒い制服ではなく青色で、校章もまた一味違う。その学校は敷地は広い。しかし校舎はプレハブをその

まま学校にしたような感じだった。全部が1階建てで、理科室やコンピューター室などと1つずつ分かれていた。そんな学校で僕達と交流してくれたのは12~15歳の日本語を勉強している人たち。みんなが兄弟のようにわきあいあいとしていた。教室へ入っておもしろかったのは、男子が体育座りをして、女子があぐらをかいているというのがおもしろかった。始めに、向こうの学校の先生が挨拶をしてくれて、次にこちらからの挨拶。その後、向こうの生徒たちが日本語の勉強をしたいということだったので、質問を受けた。

勿論、質問は日本語。

「名前は何ですか。」

「年は何才ですか。」

「ホットドッグは好きですか。」

など、だいたい6, 7項目ぐらい質問をされた。こちらも土佐弁を使ってはいけない、標準語で、と気をつけた。びっくりした質問があった。

「干支は何ですか。」

という質問。名前とか年齢ならまだしも、日本独特の干支まで聞いてくるとは、と感嘆してしまった。しかし干支を教えるのは難しかったと思う。日本人でも覚えるのは小学校へ入ってからなのに。それよりは富士山とか城とか教えたらいいのと思った。でも、もし富士山とか城を知っていて干支まで知っていたら、もうかなり日本通になっているのかもしれない。

今度はこっちから質問しなさいと言われ、質問しようとした。しかし何才ですか、という英文がでてこない。だから添乗員の人に教えてもらってようやく分かった。オーストラリアの人は日本語で、

「何才ですか。」

と言えるのに、僕は英語で言えない、そう考えると、なんか情けないような気がした。たしか「What do you like sport?」と聞くと、「バイクに乗ること」と英語で返事が返ってきた。英語で返ってくるのは当たり前だが。そこで日本の事情を説明しようと、めっちゃくちゃな文法とジェスチャーで、日本人は16歳以上でないと乗れないと説明したら、なんとか通じたみたいだった。やっぱり通じるとおもしろくなってきた。

その後、生徒10人それぞれにオーストラリアの人

が2人ずつついて学校案内をしてくれた。職員室、技術室などを周った。僕にはAdamとGrantという子が案内してくれた。2人とも中学1年生。案内された教室でもそこにいる先生と話したり、握手したりと楽しかった。



オーストラリアの食事は、とても美味しかった!!

そして、最後はティータイム。ジュースとお菓子を食べながら話をした。この学校にいたのはたったの2時間。その2時間が今回オーストラリアへ行った10人が一番思い出に残った時間ではなかったのだろうか。オーストラリアの人もこちらの下手な英語をできるだけ聞き取って、何か返事をしてくれた。また、日本人と違って学校にいたすべての人が積極的に話しかけてくれたので一番思い出に残ったのではないだろうか。今度はこちらからお礼をする番。急にはできないが、いつかは実現させたい。お世話になった人達を大豊町に招くこと。その時はどこにいてもすぐ帰って来て案内役をかってでたいと思う。なにはともあれ、この学校の人達が僕達のオーストラリアへの印象を一層良くしてくれたことは間違いない。

残念だったことが2つある。1つは交流する時間が少なかったこと。ちょっと2時間というのは少なかった。自分達と同じ年齢の人と交流するのはここだけしかなかったのだから、もう少し交流する時間がほしかった。これを解決するには、ホームステイ先の子供がこの学校に通っていたら、もっとこの学校にも入れる。2つめは、1つめと関係するが自己紹介ができなかったことだ。まあ、時間がなかったわけだが。行く前に考えて考えて、いここにまで手伝ってもらってできた自己紹介。したかったな。でも、これもホームステイをすると解決するのじゃな

いかと思う。

でも今思い返してもこの2時間が一番印象に残っている。印象に残っているからこんなにたくさん書けた。春休みにでも行ってみたい。みんな日本語がかなり上達していると思う。

観光の方も良かった。シドニーは日本で言えば東京。東京へは行ったことがないので、東京もあんな感じなのかなと思った。

「オーストラリアといえば、何を思い浮かべますか。」と聞かれて思いついたのは、コアラ、オペラハウス、カンガルーの3つ。オーストラリアへ行くのだから、この最初に思いついた3つは全て見たいと思っていた。結果は3つすべて見れたし、コアラは1997年頃から抱けなくなるみたいだ。

今回の少年の翼でホームステイと変わってはいったのがファームステイ。乗馬やカヌー、羊の毛刈りなどなど日本ではめったにできないようなこともできた。ここの従業員の人には英語しか通じなかった。いざ質問してみると通じたり通じなかったりといういろいろ。また、質問されると1回目は応答できても、もう1回返事が返ってくるともう分からなくなることが多くて困った。



オペラハウスを背景にハイ「ポーズ」

メルー国際センターというところでファームステイをしたのだけど、ここは空がきれいだった。大豊もきれいなのかもかもしれないけど、あちは高い山がなかったので上を向くとすべて空、という感じだった。そこで見えたのは南十字星。ニセ十字、ほかにもいろいろあるのだろうけど名前が分かったのはこの2つ。南十字星のほうがニセ十字より大きさが少し小さいだけであとはほとんど似ていた。この南十字星、ニセ十字は北半球では見れない星座だそうだ。

星座観察という時間は設けてあったが、その日は空が曇っていて見れなかった。

オーストラリアで実際いろいろなことを経験したのが4日間。もう少し多くても良かったと思う。でも毎日すること、見ることほとんどが初めての体験だった。もうあれから2週間ぐらいたったけど、普段はもう忘れていそうなことでさえ覚えている。

オーストラリアに行く前にできるだけ英語で（当たり前か）質問したりしよう、という目標を立てた。そして、いろいろなことを聞いたりしたけどどうしても分からないことが多く、結局山口さんなどに頼ってしまうことが何回もあった。けれど質問するという目標は達成できたと思う。中学校3年間の英語教育で日常会話くらいならできるみたいだけど、まだまだ自分の英語の力が足りないと感じた。

今回オーストラリアへ行って、本当に良かったと思う。いろいろな事を経験して物の考え方も少しは変わったんじゃないか、とも思う。やっぱり中学生ぐらいで海外へ行くことはいい事だな、と実感した。だからこれからもずっとこの企画を続けてほしい。まず、行くことでマイナスになることはない。また、どうせ行くなら英語を母国語にしている国がいい。それとやっぱりホームステイも入れたらいいと思う。

最後になったけど教育委員会や大豊町の方々、まだ中学生の僕達をオーストラリアに行かせて下さってありがとうございました。いい経験になりました。

「ひと夏の思い出」

大豊中3年 北村 千恵

夏休みの始め、大豊町内の中学生対象のオーストラリア旅行の応募がありました。はじめての海外旅行なので家族たちがゆるしてくれるか不安でしたが、なんとか一番心配だった父も許してくれて、いざ、面接の日…。

すごく緊張して、日本語が日本語じゃないくらいでしたが、なんとか面接を乗り越え、日本を出発する日…。

はじめて乗る飛行機だったので、すごくドキドキものでした。しかし乗ってみると、あ〜こんな感じなんだとぐらいいいと思いましたが、大阪から

シドニーに向かう飛行機の中ではスチュワーデスの仕事の大変さがよくわかりました。10時間以上の飛行機の旅を終えて、シドニーに到着。着いたら外国の人ばかりでもうすごく不安で、これから5日間過ごすことができるのだろうか、と本当に思いました。

最初の訪問地であるメルー国際センターに着いた時にはもう日本を出発してから1日と半日。長かった道のりでしたが、それなりに満足することはたくさんありました。まず着いてから、部屋に入り、お昼を食べてから、羊の毛刈り、乗馬、ブーメラン投げなどをしました。なにもかもが初めて体験することばかりで好奇心でいっぱいでした。

羊の毛刈りでは、モウモウとした羊の毛があったという間になくなってしまいました。ガリガリになった羊をみると少しかわいそうでした。しかも切れて血が流れていました。私たちのために羊にわるいことをしたような気分でしたが、羊の毛も持って帰れたことだし、ここで1つめの思い出ができました。

乗馬は、近くでみればかわいい顔をしていた馬ですが、やはりいざその馬に乗れ、と言われたらちょっと抵抗があったけれども乗ってみれば、こっちの勝利。始めは、なかなかいうことをきいてくれなかったけど、だんだん馬の操縦にもなれ、やみつきになりそうなくらい楽しかったです。次の日の午後も予定には入ってなかったのですが、2回目の乗馬を楽しみました。これも思い出の1つです。

ブーメラン投げは楽しかったけれど、ブーメランを投げても自分の所に帰ってこず、ブーメランをとり走りまわりました。



日本語で話しかけられ、団員もたじたじ

ちょうど同じ時に群馬県の中学生もメルー国際センターにきていて、メルーでの1日目の予定が終わっ

てからバレーやバスケットをしました。なんか同じ日本人で同じ中学生だったので、安心したし、不安がなくなりました。群馬の人とは初対面だったのにすぐ仲良くなれたし、夜にはいろんな星を教えてもらいました。それがまたメルーでの星空といたら、もういい表せないほどきれいでした。空自体が日本とはちがってすごく広くて雲が1つもなく、手を伸ばせば星に届きそうなくらいでしたから、星空なんて数えきれないくらいの星と静かな周りでもう最高の気分でした。新婚旅行に行くのなら、こういう所が一番だと思います。夜遅くまで見ていた星空。これも思い出の1つです。



日・豪親善友好条約調印!!

ここでメルー国際センターでの1日目が終わりました。外国に着いてからたった1日でこんなにたくさん思い出ができました。

そしてメルーでの2日目。

午前中に牛の乳絞り、動物への餌付けなどをしました。牛の乳絞りは乗馬の時と同じで、もう牛にさわるのがこわくて、しょうがなかったけれど、絞ってみれば、あ、本当に牛乳がでていて、すごい…と思いましたが、乳絞りはこれでもういいです。やっぱりこわさが乗馬とは違って、最後までぬけませんでした。しかしこれも思い出の1つです。

動物の餌付けは羊に朝ごはんをあげました。なんか手をそのままペロペロなめられて気持ち悪かったです。

それから餌付けが終わってから、カヌーに乗りました。カヌーも初めてだったけど、それほど恐怖感はなく、カヌーは心から楽しみました。最初は水にぬれるのを避けていましたが、カヌーの係の人だったメルーの人が水をかけたのがきっかけでもうそれからは、水のかけあいでズボンなんてびちゃびちゃ

になってしまいました。これも思い出の1つです。

午後からは、アーチェリーをしました。これもなんかかっこよくて、矢をはなしたときには、ささる場所は別として、すごく気持ちよく打てました。

それからブッシュウォーキングをしました。なんか家に帰る道みたいな所でした。メルー国際センターのまわりを一周しました。道を案内してくれた人は、歩くのがすごく速くてついていくのがやっとなかったです。これも思い出の1つです。この日は1日メルー国際センターですごしました。

そしてメルーでの3日目。

この日は午前中に現地の学校訪問がありました。この日で群馬の人たちとはお別れでした。バスに乗って学校に着いた時に、一番最初に思ったことは、日本の学校とは全然ちがう建物だったので、びっくりしました。現地の校舎は日本でいえば、工事のときなんかには使う仮の建物みたいでした。校舎はボロくても学校の人たちはとてもあたたかく歓迎してくれ、一番の思い出といってもいいくらいでした。最初に現地の中学生が日本語でいろいろ質問をしてくま



アンデルカレッジの皆様と記念写真

た。「何でしょうか」とか「誕生日はいつですか」などきいてきました。すごく日本語がうまい人ばかりでおどろきました。

それから1人に2人ずつ、現地の中学生がついて学校案内がはじまりました。英語がほとんど話せない私は、はなれ小島に1人おきざりにされたような気分でしたが、私を案内してくれた2人 Olivia と Nacquel は本当にやさしく意味が通じるまで絵を描いたり、ジェスチャーをやったりして話をしました。私も知っている単語をならべにならべて、ひっして話をしました。最初は本当に緊張してガタガタ

だったけれど、時間がたつにつれて、だんだん慣れてきて本当に楽しかった。言葉では何を言っているかはよくわからなかったのですが、なんとなくわかるような気分になれました。この日の午前中はあつという間に終わりました。別れるのが本当につらかったです。しかし今、日本に帰って来てもその人たちとは文通でもっともっと交流を深めたいと思います。

そして、シドニー市内に行く日(4日目)の朝。メルー国際センターの人たちとお別れする日がきました。メルーで特に私がお世話になった K I Y O S U K U のおぼさんをはじめ、食堂の人たち1人1人にお礼をいってまわりました。3日間もお世話になったので感謝の気持ちでいっぱいでした。

4日目のシドニー市内の見学では、動物園で本物のコアラをだっこしたり、それからハーバーブリッジやオペラハウスなどすごく景色のいいところに行きました。とにかく外国の町といい空といい見るところすべてがきれいでした。

約1日かけて市内見学を終えて、夕方、サンセットクルーズで船の中で夕食を食べたり、海から市内を見たりしました。

船の中の店員の人もすごくかんじのいい人ばかりで、夕食を食べてから、1人の店員が船を運転している所に案内してくれました。

それから、船を降り、おみやげを買いに免税店に行きました。免税店では日本語がしゃべれる店員の人ばかりでした。これもいちばんつかれたけれど思い出の1日です。

そして26日、ついに日本に帰る日になってしまいました。もう帰るのかと思うと、少しさみしい気分でした。

中学校最後の夏休み、この夏休みは最高でした。あつという間だったオーストラリアでの日々、1日1日が数えきれないほどの思い出になりました。オーストラリアの人たちとのたくさんの出会い、1人1人がとてもやさしくいい人ばかりでした。

こうして、無事に旅行を終えれたことは教育委員会の人たちのおかげです。

そしてまた、外国に行ける機会があれば、新しい出会いに、楽しい思い出作りに行きたいと思います。そしてこの旅行、すてきな出会いをありがとう。私はこの思い出は一生忘れません。

婦人コーナー

大豊町連合婦人会発足40周年記念大会

大豊町連合婦人会主催・大豊町教育委員会協賛

生涯学習時代の女性として、自分たちの生き方を再認識すると共に、お互いの資質向上を目指し、21世紀への展望を掲げた大豊町連合婦人会発足40周年記念大会が催されました。

この日に、西岡仁司町長をはじめ来賓各位・会員合わせて170余名が参加し、なごやかに、しかも意欲的な雰囲気の高まる会となりました。

参加者たちは、感激の中で、懐かしい人たちとの再会を喜び、又、この出会いを機に交流を誓いあう場面もありました。この大会が、「いきがい おおとよのすみよさづくり」への“あゆみ”としてお互いが手を携え、期待される女性像に向かって前進されることをお祈りします。

感謝状受賞者

7代目会長 上村 寿美子

8代目会長 平石 常子

講演

演題 『 婦人会のあゆみと21世紀の展望 』

講師 東京ウイメンズプラザ

主任専門員 熊沢 知子

発表

地域の活動に携わって

久寿軒 西岡 広子

40年を想う

東土居 近藤 三乃

アトラクション

舞踊 9 穴内 東豊永 大田口 豊永 天坪

寸劇 2 東豊永 岩原

民謡 1 大田口

コーラス 1 役員

ご挨拶

大豊町連合婦人会長 池添 玲子

去る十月六日大豊町連合婦人会発足四十周年記念大会を開催致しました処、さわやかな天気にも恵まれ、大変お忙しい中、百五十名の各地区からご参集頂きました会員の皆様と共に西岡町長様を始め、ご来賓の方々にご臨席を賜り、盛大に催ようされました事、心から感謝しております。どうもありがとうございました。厚く御礼申し上げます。



私達は今、恵まれた婦人会活動に取組み乍ら思い出される事の一つに、戦争当時の国防婦人会がございます。夫を、息子を戦場に送り出し、年老いた親、幼い子供を守り育て乍ら、ある時は出征兵士を見送りお百度を踏む姿、又ある時は無言で帰る兵士を涙して迎える姿、肩にかけた国防婦人会のたすき。当時の母親達が思い浮かんで参りますが、早くも五十年と云う長い年月が流れ去りました。忘れようとして忘れたい思い出、当時の頃の私達はまだ幼い少女でありました。敗戦思いもよらない出来事、苦し

い混乱期の中で新しい憲法が発布され、女性にも選挙権が与えられ男女平等、女性地位の向上もめまぐるしく進歩致しました。がしかし、まだまだ封建的
社会の余韻の残る中で、大豊町連合婦人会が昭和三十年に設立され、ここに四十年と云う歳月が流れて
参りました。初代会長を努められた橋本会長様を始め、会員の皆様のご苦勞は、今私達の想像以上に深い苦難の道だったと唯々頭の下がる思いで胸がいっぱい
でございます。

物の不足の時代から物の豊かな時代へと移り変わ



役員の皆様の調和のとれたコーラス

りも激しく、便利さを至上とする生活志向の増える
中で、さまざまなひずみも生まれて来た事も決して
否定出来ない事なのです。激動する時代の中で、苦
しみや悲しみを克服し汗と涙で現在の組織を築き上
げ、輝かしい実績を残された歴代の会長の皆様方
のご苦勞と努力に対して、今ここで改めて感謝致し
ております。

そこで四十年と云う長い歴史をさかのぼり、お手
元に「あゆみ」を作成しましてお届け致しました。
時間の都合上満足出来がたい処もあるかと思われま
すが、どうぞお目を通して当時を御回想頂けました
ら幸いと思っております。皆様ご承知の様に私達を
取り巻く環境は日々めまぐるしく変動して参りまし
た。高度成長時代から安定性時代、そして低成長時
代と転換し、更には過疎と高齢化、少子化時代を余
儀なく迎えました。大豊町におきましても人口は年々
減少を続け、遂に七千人台となりました。現在婦人
会も約八百人となっておりますが、私達は人数には
こだわることなく、家庭や地域社会の中で自分達の役
割の大切さ、重大さを認識し山積みする課題の一つ
一つについて取組み、実態を把握しながら解決を図

るために、相互に学習しこれを行動づけて行かねば
ならないと思っております。幸いに致しまして大豊町連
合婦人会は、各地区でお互いの親睦と活性化を計る事
を目的として毎年地区別研修を続けて、大変有意義
な成果をあげております。今後におきましても四十
年という節目を契機として婦人会と云う組織を一つ
の軸とし、激動する社会情勢の中で思いやりのある
心を育て乍ら、健康、趣味、学習を積み重ね「人を
支える力は女性の力」という事を一つの理念として
昔ながらの大豊の自然を残し、守っていく事に専念
致したいと思っております。大豊の豊かな自然は先
祖から頂いた最大の遺産なのですから。

最後に関係機関の方々に今後、益々のご支援とご
協力をお願い申し上げますと共に皆様方のご連絡を
お計りいたしまして私の挨拶と致します。

終わりにになりましたが、ご講演をお願いいたしま
した熊沢知子先生の「婦人会の歩みと二十一世紀へ
の展望」。身にしみる教えを頂きました。本当にあ
りがとうございました。

心身のリフレッシュと共に親睦を 深め地域活動の推進をはかろう

—第10回高知県連合婦人会スポーツ大会—

10月17日、恒例のスポーツ大会が春野町スポーツ
パレスにおいて開催され大豊町からは、22名の選手
が参加しました。

各市町村から1000余人の会員が集い、熱気に燃え
た競技の中、大豊チームが綱引きの部で28チームを



見事優勝カップを手に

勝ち抜いて優勝の栄に輝きました。

大豊チームは、過去においても優勝1回、準優勝2回の成績を収めており、今回も大きな期待がかかっていたものです。

参加者たちは、お互い「心と力」の結束を喜び合い、「この輪を地域活動へ広げたい」との思いを胸に意気あいの帰途になりました。

『輝いて生きる』

—生涯学習時代に学ぶ女性たちの集い—

生涯学習時代に、「輝いて生きる」ために学ぼうとする女性たちが、約30名集まり、5回の講座をすすめています。

昨年度は、「みつめよう ふるさと」、のテーマで学習してきましたが、7年度は、自分自身のこと

に焦点をあて、「輝いて生きる」をテーマに楽しい

学びの道を開拓することになりました。

学習内容は表の通りで、講師の明神宏和先生（県女性問題アドバイザー）を中心に出会いのセレモニー・講義・交換・意見発表・歌声等の学習方法で回を重ねています。

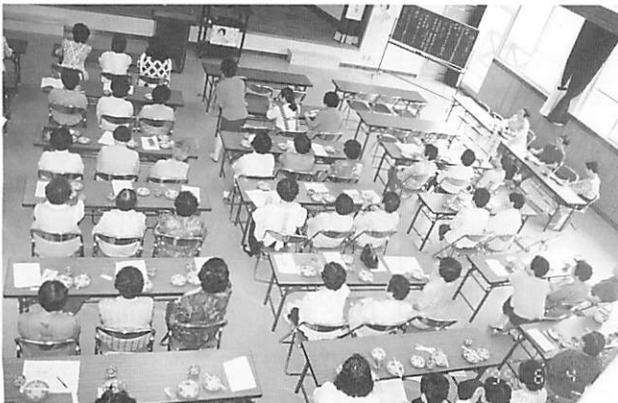
学習プログラム

回	日 時	場 所	内 容
1	7月15日 13:00~16:30	れいほく 21世紀センター	「輝いていきる」Ⅰ おとよの女性たちは今
2	8月26日 13:00~16:30	〃	「生き方を学ぶ」 学びあい 育てあい 認めあい
3	9月 9日 13:00~16:30	〃	「素敵な人間関係」 話上手 聴き上手 学び上手
4	11月11日 12:30~16:00	大豊町ゆとりすと 交流センター	「望ましい人間関係」 男女のあり方 親子のきずな
5	2月10日 12:30~16:00	大豊町ゆとりすと 交流センター	「輝いて生きる」 生き甲斐とすみよさのまちづくりへ

※この学習会は、町内の女性ならどなたでも参加できます。お問合せは生涯学習課へ

平成7年度地区別研修会

月 日	地区名	場 所	内 容	講 師 等
5月28日 28名	久寿軒	岡山県ばら園	① 料理伝達実習 ② ボランティア活動について ③ ビデオ学習 生涯学習について	食生活推進員
6月4日 80名	豊 永	大豊町ゆとりすと 交流センター	① 料理伝達実習（バイキング方式昼食会） ② 社会を明るくする広報映画 ③ 健康体操 ④ 講演 「EMですてきな暮らしを」 ⑤ 茶話会	食生活推進員 寛 基 嶺北EM普及 協 会
6月11日 50名	穴 内	宇佐の浜へ 三世代交流	① 自己紹介と抱負を語る ② ビデオ学習 生涯学習社会 ③ 合唱	
7月2日 16名	天 坪	生活改善センター	① 料理伝達実習 ② 話合い 年間活動 EM 他 （昼食会と交流） ③ 講演 「健康はライフスタイルが鍵」	食生活推進員 斉木康乃
7月9日 61名	大田口	淡路島方面 七福神めぐり	① 民話を聴く ② ビデオ学習 生涯学習社会 ③ 交流	吉田徳衛
9月3日 35名	東豊永	東豊永公民館	① 料理伝達実習 ② 昼食会と交流 ③ 講演 「今、女性に求められるもの」 ④ 保健婦さんを囲んで 「地域の現状の中で 私たちの役割を考えましょう」 ⑤ EMを使ったゴミ処理について	食生活推進員 釣井龍宏 篠原美紀子



スポーツヨーター

生涯スポーツクラブの紹介

豊永いそじバレーボール部

昭和35年、大豊町初のママさんバレー部として結成されたグループは35年たった今もほとんど当時のままのメンバーで活動しています。

メンバーは昭和2年生まれの上村さんを筆頭に平均年齢は60歳「バレーボールをしているときが一番楽しい」と若ママさんを相手に毎週月曜日と木曜日の夜遅くまで、元気な掛け声が豊永小学校の体育館

中に響きわたっています。

昭和50年ごろピークを迎えたママさんバレーは高齢化と過疎化とともにその活動も静まり、バレーボール人口は年々減少してきました。その中で常にマイペースでバレーボールを楽しんできました。

これからもチームの和をもっとうにますます活躍して載きたいと思います。

大豊町の体育会加入者からみたスポーツ人口

	部	H6	H7	男	女	平均
1	ソフトボール	225	214	211	3	31.9
2	バレーボール	17	16		16	39.0
3	バドミントン	10	38	21	17	28.0
4	柔道部	11	14	9	5	8.9
5	剣道部	76	79	51	23	12.5
6	相撲部	2				
7	クレー	14	20	20		
8	ゲートボール	52	76	42	34	75.0
9	ソフトバレーボール	46	55	18	37	36.4
	計	453	512	372	135	
	スポーツ人口		7%	11%	3%	

*人口：6,977人（男：3,227 女：3,750）

〈4月～11月のスポーツ行事〉

4月

30日 町ソフトバレーボール大会（大杉中体育館）

5月

23日～6／2日 ソフトバレーボール教室（天坪地区）

6月

6日～20日 ソフトバレーボール教室（西峰地区）

24日 町体育会代議委員会

25日 第34回嶺北地区剣道大会（土佐町中）

26日 町ナイターリーグ開幕

7月

2日 第13回わんぱく相撲大会（南国市）

16日 第33回県体ソフトボール大会予選（南国市）

26日 嶺北地区相撲大会（大杉農村広場）

27日～8／25日 夏休み巡回子どもスポーツ教室（町内小学校）

8月

町子ども会ソフトボール大会（大杉農村広場）

1日～10日 子ども水泳教室（大田口小、大杉中）

6日 ソフトバレーボール講習会（大杉中体育館）

9月

3日 大豊町相撲大会

28日～10／11日 地区巡回スポーツ教室（ペタンク）西峰地区

29日 町スポーツ大会開会（大杉中体育館）

（町スポーツ大会）柔道大会

（町スポーツ大会）ソフトバレーボール大会

10月

8日 第17回県下柔道大豊大会（大杉中体育館）

10日・29日 町スポーツテスト（大杉農村広場）

15日 第19回県民生涯スポーツ大会（土佐町、本山町）
地区運動会

22日 県民フェスティバル（ペタンク）香北町

11月

3日 （町スポーツ大会）剣道大会（大杉小）

社会体育生涯スポーツ

4月～12月のスポーツ行事

6月26日
スポーツシーズンの
トップをきってナイ
ターリーグの開会
式が行われた。
チーム参加。



(大杉農村広場)



ちびっ子相撲



8月6日

ソフトバレーボール講習
町ソフトバレーボール人口の
増加とルール改正に伴い、
講習会を開く。県ソフトバ
レーボール協会から講師を
招き、高知市内から2チ
ームを招待して交流試合をお
こなう。



夏休み子どもスポーツ事業



(水泳教室)



(グランドゴルフ)

生涯スポーツクラブ紹介

1～3月の行事

2月 親子スキー教室
マラソン大会

3月 第14回土佐南国地区
駅伝競争大会

“豊永いそじバレーボール部”



グループ結成は昭和35年、当時町最初のママさんバレー部

ニュースポーツ（ベタンク）の講習会

スポーツの秋
町民スポーツ開会式



（ベ タ ン ク）

青少年事業コーナー

「こうちこども未来塾」大豊町で開催される。

講演者 北野 大 先生



11月25日北野大教授を招いて大杉中学校体育館でこうちこども未来塾が開催されました。

このイベントは有名人の講演会を開き子供達の未来に夢を与えるよう橋本県知事の提唱で始まった事業です。今まで宇宙飛行をした秋本さんやオリンピックで金メダルをとった池谷さんが講師になっています。今回はテレビ番組「マジカル頭脳パワー」やビートたけしの兄で有名な北野大さんが講師でした。北野大さんは環境科学専門の大学教授です。講演テーマは「やりたかった二番目のことを大切に！」北野さんはテレビ番組やビートたけしのエピソードなど愉快地話して下さいましたが、特に「わたしは英語が一番が好きです。好きなことは苦にならずいつでも出来るので二番目に好きな環境科学を大切にしています。みなさんもやりたかった二番目のことを大切にして下さい。」と話していました。講演を聞いた中学生の一人は「北野さんの話は実におもしろかった。きどらないやさしそうなおじさんでした。」と話していました。町内外の子供からお年寄りまで幅広く300人ぐらい集まり楽しい土曜日の午後を過ごしました。講演を開催するにあたって受付や司会を

した大杉中学校の生徒さんごくろうさまでした。

未来塾開催前に誰を呼びたいか町内の小中学生にアンケートをとった結果、科学の分野で北野大さんは一位でしたが、他の分野の人気ベスト20です。大人のみなさんは全員知っていますか？

(スポーツ)

1. ラモス瑠偉
2. 池谷幸雄
3. 松井秀樹
4. ジョーダン
5. イチロー
6. 長嶋茂雄
7. 三浦知良
8. 斎藤雅樹
9. 清原和博
10. アルシンド
11. 落合博光
12. 定岡正二
13. 福原 愛
14. 飯田哲也
15. 大林素子
16. 山内美香
17. ジャイアント馬場
18. 原 辰徳
19. 中畑 清
20. 小錦
21. 荻原健司

(文化・芸術・芸能)

1. 所ジョージ
2. t r f
3. キンキキッズ
4. ダウンタウン
5. ビートたけし
6. SMAP
7. 安達裕美
8. 大黒摩季
9. 茂田景樹
10. 中山美穂
11. タモリ
12. Mr. チルドレン
13. 西田ひかる
14. TOKIO
15. 勝又
16. とんねるず
17. 小橋賢児
18. 木梨憲武
19. 明石さんま
20. ウッチャン
21. 横山ノック

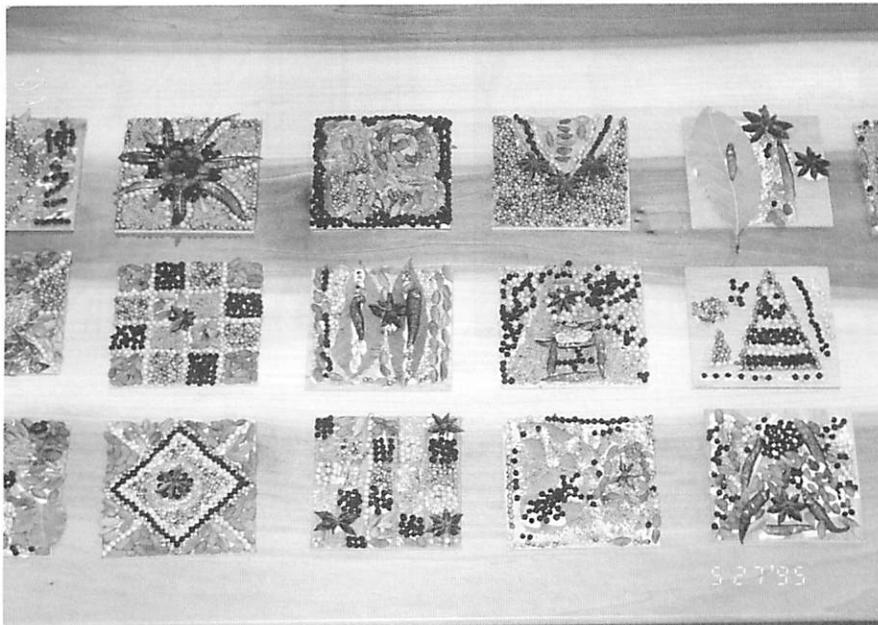


◇平成7年度青少年育成事業のご紹介◇

🌸🌸🌸 植物ウォッチング 🌸🌸🌸

5月27日(土)、ゆとりすとパークにおいて植物ウォッチングが行われました。当日はたいへん良いお天気に恵まれ絶好の散策日和となり、参加者19人は元気にゆとりすとパークに向かいました。途中バスを降りて牧野植物園の鴻上先生の植物に関するお話を聞き、お昼頃ゆとりすとパークに到着。昼食

後、ハーブクラフトに挑戦しました。10×10の板の上に乾燥させた植物の種や実などを貼り付けていくもので、みんな真剣に取り組んでいました。出来上がった作品は各自の個性がよく表れていて、この日のよいお土産になりました。



子供達の作品 どうキレイでしょう！

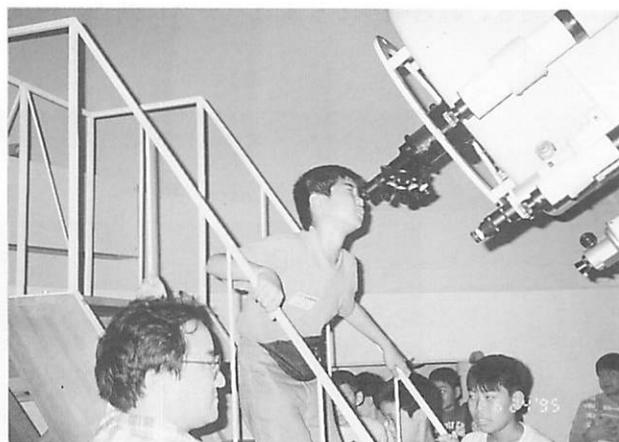


昆虫採集 & 天体観察 ☆☆☆

6月24日(土)、30名の昆虫調査隊が梶ヶ森へ出発！到着するとさっそく網を抱えて山を駆けめぐり、いろいろな虫を採集しました。指導にあたって下さった教育センターの中山先生によると、今年の夏は前半なかなか気温が上がらなかったのと、去年の猛暑のせいもあって昆虫は少なめだったようです。

夜になると木星やベガを観察。梶ヶ森の大きな天体望遠鏡では、なかなか見ることのできない木星の表面まで見ることができました。

この日は遅くまで騒いで、翌日はみんなぐったりしていたようですが、これもまた良い思い出となったのではないのでしょうか。



おおとよの子フィッシングコンペ

優勝は稲田晃久くん

子供達の夏休みに「おおとよの子フィッシングコンペ」が開催され、大杉小学校4年の稲田晃久君(大王下)が見事優勝しました。

この大会は、7月22日から8月31日の間に町内の川や谷で魚を捕まえ写真か魚拓をとって応募するコンペで、各種類の魚ごとにあらかじめ持ち点が決められており釣った魚の長さを乗じた点数の合計で競れました。優勝した稲田君は「魚釣は大好きでよく弟やお父さんと川に行きます。夏休みの1/3は魚を釣りにいきました。釣りつけもよくしますがウナギは夏休みに捕まえることができませんでした。オコゼは大王下の川で2匹捕まえました。とにかく優勝したことはうれしい。うれしい。」オコゼは最近少ないため持ち点が高く稲田君の勝因でした。そばにいた準優勝の川村君「くやしい夏休みの前に釣りつけで90cmのウナギを捕まえたのに」川村君は昨年優勝しており、もしあと1匹6cm以上のハエでも釣っていたら2連覇となっていました。今回参加しなかった小中学校の皆さん来年こそチャレンジしてみませんか！。

応募したベスト5の成績

優勝	稲田 晃久	大杉小4年	308点
準優勝	川村 文也	大杉小4年	297点
敢闘賞	北窪 修司	大豊中2年	289点
4位	猪野 孔太	川口小3年	255点
5位	猪野 大介	川口小6年	216点
大物賞	田村 直樹	大田口小6年	ウナギ70cm
稲田君の成果	(クグ29cm・オコゼ12cm・アユ22cm・ゴリ4.5cm・イダ17cm・アサガラ19.3cm・ニゴイ43cm)		



準優勝の川村君と優勝の稲田君

公民館コーナー

今回は川口公民館の行事を紹介します。

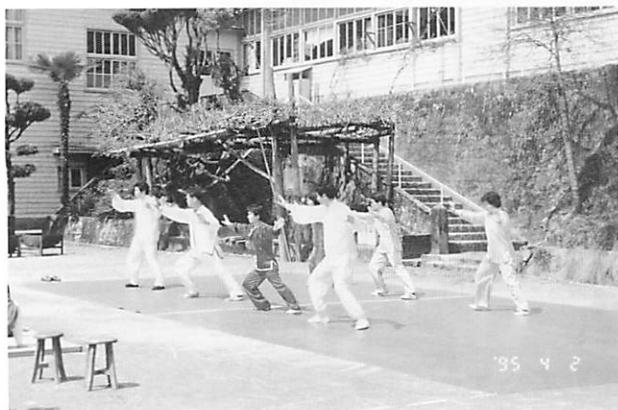
川口公民館ではゆとりスト養成事業で空手と太極拳教室が実施された。このほど空手・太極拳発表会そして地区の花見会の報告があったのでその様子を紹介します。

去る四月、川口小学校のグラウンドにおいて67名の参加のもと、これまで取り組んできた空手および太極拳教室の成果を発表し、3世代の交流を図り合わせて事業の益々の発展を願い企画された。

空手の部では、9名の児童が、板割りを披露。厚さ7～8ミリの板を四方に配置した、いわゆる四方割りに挑戦した。「オリヤー」の掛け声も勇ましく、前蹴り、バック蹴り、左パンチ、右パンチと次々に割っていき、会場からも盛んな拍手と歓声があがった。最後に1対1の戦いである組手を披露したが、本番さながらの激しさや空手の技の応酬に加えて子供らしいユーモラスな面もあり、会場を楽しい雰囲気にした。

これまでの教室の成果を青空の下でのびのびと発表し、以前にも増して成長し遅くなった子供達に惜しみない拍手が送られた。

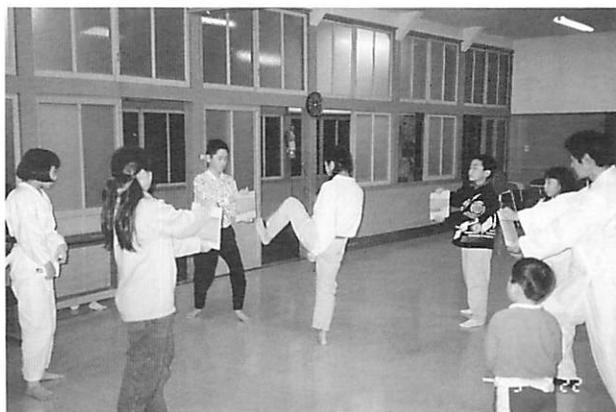
太極拳の部では、10名の大人が入門太極拳を中国の音楽に合わせて披露し、初級太極拳及び二十四式太極拳を宗次郎のオカリナに合わせて披露した。



調和のとれた太極拳

さわやかな春の風が緊張感を和らげ、のびのびとした演武を披露した。

講師の方の模範演武の、最初は岡本好先生の揚式太極拳で、中国の音楽に合わせ、とても可憐な演武で会場の人達を魅了し「まあ綺麗」「まあ綺麗ねえ」と云う声があちらこちらから囁やかれまるで天女を見ているようであった。



気合いを込めて「エイ・ヤー」

次に内田裕庸先生の八極拳と剣は、男性的でとても優雅で太極拳の素晴らしさと、奥の深さを実感させられる実に神秘的なものであり、会場の沢山の人の拍手が山々にこだまし鳴り止まなかった。

藤本真事先生のマジックショーは、とても心温まる先生ならではのものであり、いつも期待しそして種を見破ろうとする観客との駆け引きのショーでもある。

川口小学校に赴任してきたときから始めたマジックは川口のイベントには、欠かすことの出来ないものとなっている。これは地域の活性化のために、赴任中三世代間交流に特に力を入れて戴いた先生の川口に対する温かい心で地域を上げて感謝し慕っているからである。笑いの中の先生の人柄が溢れるマジックショーは、地域の親睦と友情を温め深めるとても楽しい愉快なものであった。

文化行事コーナー

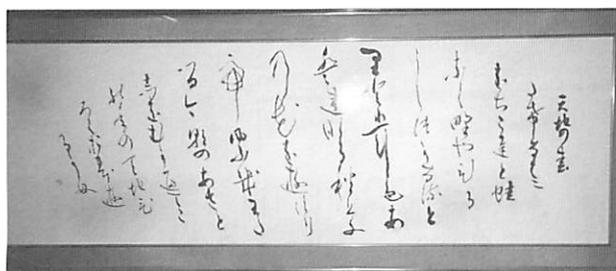
『嶺北総合美術展覧会開催』

10月27日から31日までの5日間、大豊町農工センターの文化ホールにおいて第25回嶺北総合美術展覧会が開催されました。5年毎の記念大会でもある今年は絵画・書道・写真・彫塑工芸の4部門に計223点の出品があり(無監査、推薦、招待を含む)、その中から各部門ごとに大賞、特選、褒状、入選が選ばれました。作品のレベルは全般的に高く、各審査の先生方も選考には苦慮されていたようです。

大豊町の出品状況はというと、絵画(20点)と写真(41点)が昨年の倍近く出品されていたものの、書道は昨年とほぼ同数(7点)、彫塑工芸は出品数が減少(10点)しており、この両分野の出品数をいかに増やすかが今後の課題となりそうです。

また、会期中約300人の方が展覧会場に足を運んで下さいました。この嶺北総合美術展覧会は嶺北五ヶ町村で日頃芸術活動に参加している皆さんの貴重な発表の場ですので、これからますます多くの方々に出品、ご来場いただきたいと思います。

☆大豊町特選者のご紹介☆



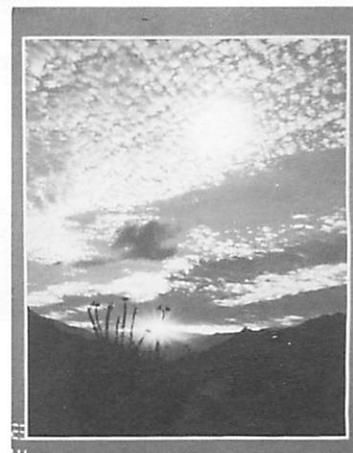
(書道) 西村 佳子「和歌三首」



(写真) 豊永 敬子
「飛ぶ」



(写真) 和田 文一
「火渡の行」



(写真) 松浦 美恵
「月見草」

第23回大豊町民文化祭



下川 辰平さん

11月19日の日曜日に大豊町農工センターで第23回大豊町民文化祭が開催されました。今年は太極拳クラブや大杉中学校 brass band などの初参加もあり、バラエティに富んだ文化祭となりました。また、毎年参加されている各部の皆さん

も日頃の練習の成果を思う存分発揮され、盛んな拍手を受けておられました。展示部門の方にも各部の力作が展示されており、参加したいと思われた方も多いのではないのでしょうか。



大杉中 brass band 部の皆さん

午後は町内の小中学生の中から選ばれた優秀作文の発表の後、引き続いて、俳優下川辰平さんの記念講演が行われ、芸能界の裏話などを披露して下さいました。普段なかなか聴く機会のない貴重なお話でとても楽しい講演でした。



学校だよりコーナー

西峰中学校

卒業生の進路講座

西峰中学校ではここ数年、卒業生が母校を訪れ、進路について話をしてくれています。

今年の夏もまた、この春の卒業生全員が、2回にわたって母校にかけつけてくれました。そして中学時代の体験談や、高校生活・下宿生活の様子についておおいに語ってくれました。中には高校の教科書やのノートを持参してくれた先輩もいて、その難しい内容に在校生は「ドヒャ〜」。とりわけ3年生にとっては、志望校決定までにゆれ動いた心の様子や、模擬テストの活用のしかたなど、身近で具体的な話ばかりで、みんな身の引き締まる思いがしたのではないのでしょうか。夏休みの補習中も先輩たちが次々と訪れては、一緒に勉強したり、3年生を励ましたりしてくれました。卒業した後も気軽に学校を訪ねてくれ、支えてくれる先輩たちを持つ西峰中学校の生徒はしあわせだと思います。

大豊中学校

「学校農園」

学校農園のタマネギ、給食センター・特別養護老人ホーム「大豊園」に贈る

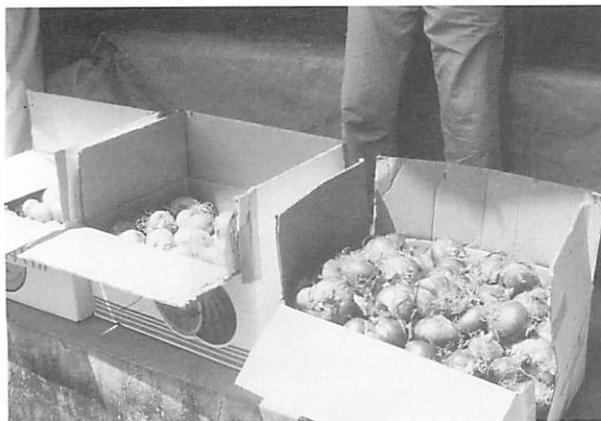
7月19日、大豊中学生徒会執行部が、大田口の給食センター調理場と川戸の特別養護老人ホームの2カ所に学校農園で収穫したタマネギ約100キロ（約千数百個）をプレゼントしました。

大豊中では、平成6年度から文部省の勤労生産学習推進校の指定を受け、生徒会を中心に、タマネギ、ジャガイモ、ニンニク、イチゴ、トマト等を栽培してきました。学校農園は、地域の方のお世話で、民間農地7アールを借り受け、また耕地から肥料やりそして植え方の指導までしていただいた物です。

栽培した作物は、現在までにほとんど収穫しましたが、タマネギが1番立派にできました。また、無農薬栽培であり、しかも生徒たちの真心がこもった



物です。タマネギ何十個かはファイアーストーム（キャンプファイヤー）で飯ごう炊飯に利用しましたが、一番よくできた物を生徒達の方針（生徒総会で老人ホームに寄付することに決まっている）通り実行したのです。



大杉小学校

「お年寄りへの手紙」

大杉小学校は、昨年度より県の福祉教育の推進指定校になっています。県下の中でも高齢者の比率の高い大豊町では、お年寄りとの関わりの中で優しく思いやりのある子供の育成を図ることが課題であると考えています。

本校では、ひとり暮らしの老人の方に時々手紙を心こめて書いています。そうすると何人かの子どもから「先生、返事が来たよ。」と、はずんだ声。読んでみると、顔も知らない方からのていねいな文面に接し、子ども達の思いが届いてうれしく思いました。ほんとうはもっと多くのお年寄りに手紙や学校での催し物の招待状を差し上げたいところですが、予算の関係でそうもいきません。本校の運動会や発表会などが少しでも憩いの場になれば・・・と考えています。



（今回は紙面の都合により3校にさせていただきました。次回に他校を掲載させていただきます。）

その他のコーナー

12月3日

土佐藩参勤交代道北山道を遊く

歴史の道調査等によって把握されてきた古道を歩き、周辺の史跡や文化財にふれ、地域の歴史や文化についての理解を一層深めました。



国分寺での説明を受ける三班のみなさん

12月7日、8日土佐藩参勤交代北山道遠征隊11名は明年度、延暦1200年を迎えることからイベントの協力依頼のため、新宮村役場、川之江市役所へ表敬訪問し県教育長のメッセージを伝える。



・県教育長のメッセージを朗読する文化財保護室補佐
(新宮村役場)



布師田御殿跡の説明



・雪の中を登る(水無峠付近)

95年も後わずかになってまいりました。1月の阪神大震災に始まりオウム、汚職の問題、沖縄の基地問題、官官接待等余り明るいニュースがなかったとお思います皆様にとってはどんなお年でございましたでしょうか。大豊町も今年40周年を迎え更なる飛躍を誓い合いました。

わが国も戦後50年を迎え各地で色々な催物がありました。皆様方にはこの50年の月日にはどんな思いがありますでしょうか。人それぞれにさまざまな出来事や喜怒哀楽の思い出が頭の中で錯綜していることだと思いますが、先日生涯学習課に匿名の方の手記が届きましたのでここに紹介します。

終戦手記



朝食の片付けの途中さざん花の宿の唄の流れにふとテレビを見ました。ピンクと白に生けられた花が美しく映されていました。

私と山茶花の出会い。それは終戦を目前にしたS19年の12月、叔父が昔のレイテ島で戦病死しました。遺骨は無事還って来ましたが、当時の事何が中に納められているのか疑う余地もなく唯々手を合わせるのみ…。

その時、庭先に咲いていたのが白い山茶花の花でした。せめてこの花を叔父の墓前にと…。私の12歳の冬の頃です。

食に餓え、花に餓え、豊かさに餓えている当時みんながこの花を見た時少しながらの心の安らぎをおぼえた事を今思い出しております。

祖母は私の顔を見ましたが、言葉は出ませんでした。長男24歳を亡くした時、何を考えていたのでしょうか？

すこしの笑みが出たのが忘れられません。あれから50年今は幸福の時代色とりどりの花に埋もれてこの世を旅立つ時代です。

山茶花の宿の唄を聴き、忘れかけた叔父の顔今生きていれば74歳…幸せの前には不幸の時代、ある老人が淵のさきには瀬、瀬のさきには淵、と云った言葉が忘れられません。そんな事を思い出しながら、

朝食の片付けをしている私です。思い出すまま取り急ぎ書きました。便せんを出す間もなく失礼とは思いつつ…。

大豊町民憲章

1. 私達は、つねに心と体をきたえて明るい家庭をつくります。
 - ・生活の見なおし
 - ・親子の対話
 - ・各種検診の受診
 - ・町民総スポーツ
1. 私達は、つねに人間を大切にし、しあわせをわかちあえる町民になります。
 - ・敬老精神の高揚
 - ・差別のない社会づくり
 - ・小さな親切運動
 - ・献血意識の高揚
1. 私達は、つねに助け合い、決めごとを守りよい習慣を作ります。
 - ・時間厳守
 - ・新生活運動の推進
 - ・行政への参加
 - ・各種違反の防止
1. 私達は、つねに郷土を愛し産業と文化の創造発展につとめます。
 - ・地域連帯性の確保
 - ・後継者の育成
 - ・文化遺産と自然保護
 - ・地場産業の育成
1. 私達は、つねに力を合わせて、福祉と文教のまちをつくります。
 - ・社会参加の福祉
 - ・しつけ教育の徹底
 - ・青少年の健全育成
 - ・生涯教育の推進

平成8年 成人式

日 平成8年1月15日(月)
時 午前10時
場所 東土居
大豊町ゆとりすと 交流センター
(詳しくは生涯学習課まで)

編集後記

95年は生涯学習全般に大変なご協力をありがとうございました。一年を振り返りますと何と月日の早かったこと、本当に光陰矢の如しの感です。出てくるのは反省の言葉ばかり……。96年は又、新しい気持ちで頑張る所存でございますので、何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

最後に皆様方にとって新しい年が希望に満ちた年となります様祈っております。